

兵道けんじニュース

発行者 公明党甲府市議会議員

2012. 冬

兵道 顕司

VOL. 1 6

甲府市中村町 1 5 - 6

TEL/FAX055-237-9529

<http://www.komei.or.jp/km/kofu-hyodo-kenji/>

「大衆とともに」の立党精神宣言から50年の佳節の本年、皆様に支えられ議員活動が出来ましたことに心から感謝いたします。

衆院選が終わり、公明党も再び政権の重責を担うこととなりました。

私も皆様の生活現場の声を国政にお届けする地方議員として、これからもしっかりと働いて参ります。



新庁舎ももうすぐ完成します

高齢者医療費助成制度廃止へ 反対の声届かず！

市議会12月定例会に当局から高齢者医療費助成制度を平成26年度末で廃止する条例案が提出されました。

この制度は、65歳～74歳の住民税非課税世帯に対して、医療費の窓口負担を法定の3割から1割になるよう市で助成するもので、「いのちをつなぐ最後のセーフティネット」として、多くの低所得の高齢者世帯の生活を支えてきました。

しかし、高齢化の進行、県の制度（68歳～69歳に対する助成）の廃止、国からの不利益措置、による事業費の増大などを理由に、市は26年度末で廃止する本条例案を提出しました。

市議会公明党は、どこまでも庶民に寄り添い、「いのちと健康を守る」立場から、委員会審議で反対を表明、最終日の本会議でも反対の討論を行い、採決でも一貫して反対しました。

結局、公明党5名をはじめ、約3分の1の11名が反対しましたが、残念ながら賛成20名で可決されました。

なぜ今廃止なのか？ ～反対する理由～

市は先に挙げた廃止の理由のほか、福祉センターの整備や予防的施策、介護サービスの充実に力を入れる必要性があるとし、さらに、県内のすべての自治体が制度を廃止することなどを挙げています。

しかし、次の理由から反対しました。

- (1) 予防的施策を講じても、加齢による抵抗力の低下は避けられず、医療とのかかわりはなくならないこと
- (2) 70歳に近づくにつれ医療ニーズは高まること
- (3) 生活費を切り詰め、ようやく医療費をねん出している低所得者にとって、医療費が一気に3倍に跳ね上がる制度廃止は、「いのちにかかわる」危険につながりかねないこと
- (4) 国が今、社会保障制度改革国民会議を立ち上げ、**社会保障制度の充実の議論をしている中での制度廃止は、流れに逆行すること**
- (5) 財政負担の増大が懸念されるのであれば、全面廃止ではなく、助成対象の見直しという選択も考えるべき

今後どうなる？

制度の対象者は**現在約2,800人**います。市では、廃止されるまでの約2年間かけて丁寧に説明し、理解を求めるとしています。

しかし、例えば、月1万円の医療費でなんとかしのいでいた低所得世帯が、3倍の3万円に医療費が上がるとしたら、果たして負担しきれませんか？

市議会公明党は、市民の皆様の安心の生活のため、引き続きこの問題に取り組んで参ります。